

## Ⅱ アンケート調査結果

## 問1 社会教委育主事有資格教員の性別

(参考) 栃木県の教員(校長、教頭、教諭、養護教諭)の学校種別男女比

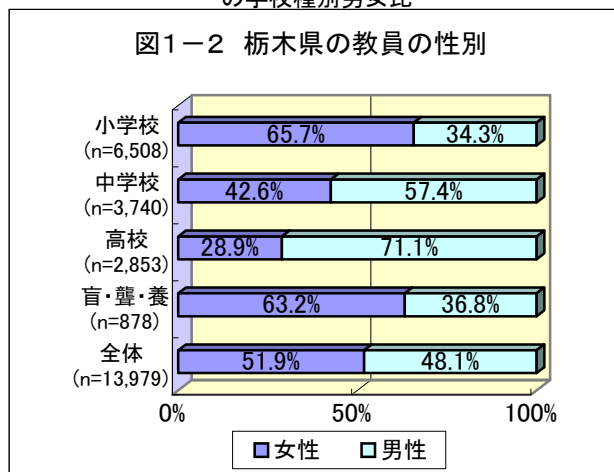
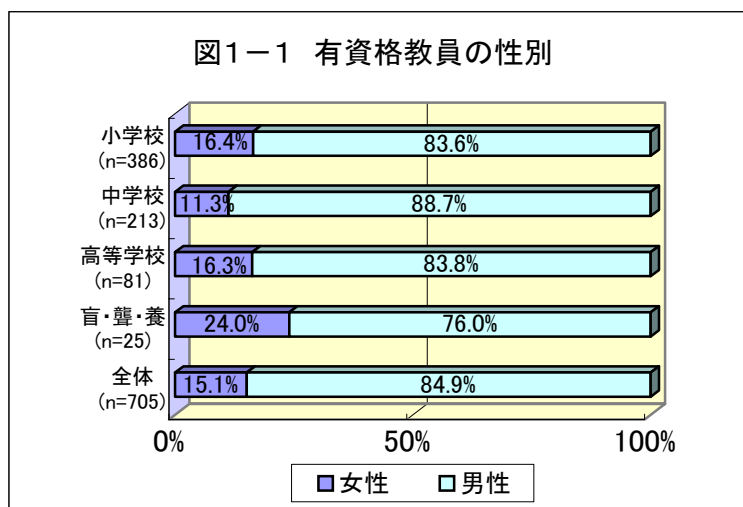


表3 社会教育主事有資格教員の性別

	小学校	中学校	高等学校	盲・聾・養	全体
女	63	24	13	6	106
男	323	189	68	19	599

表4 栃木県の教員の性別

	小学校	中学校	高校	盲・聾・養	全体
女	4,278	1,594	825	555	7,252
男	2,230	2,292	2,028	323	6,873

(出典: 栃木県公立学校教員構成調査 平成18年5月1日現在)

- ・ 栃木県全体の教員の比率では、女性52%、男性48%であるのに対して、社会教育主事有資格教員では全体として約85%が男性である。

## 問2 社会教育主事有資格教員の現在の年齢

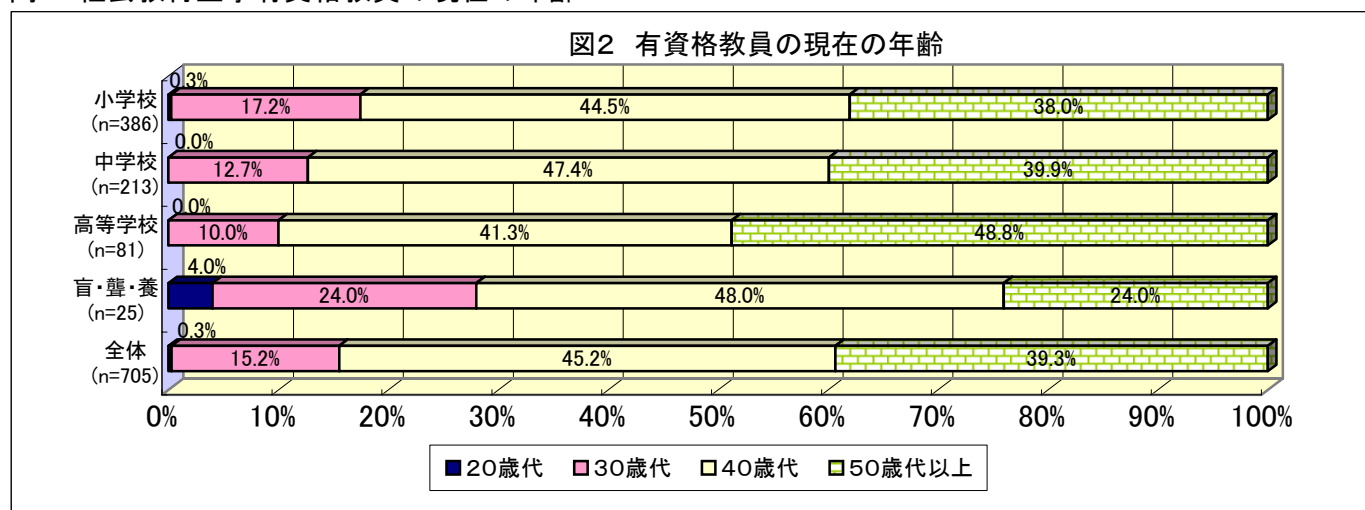
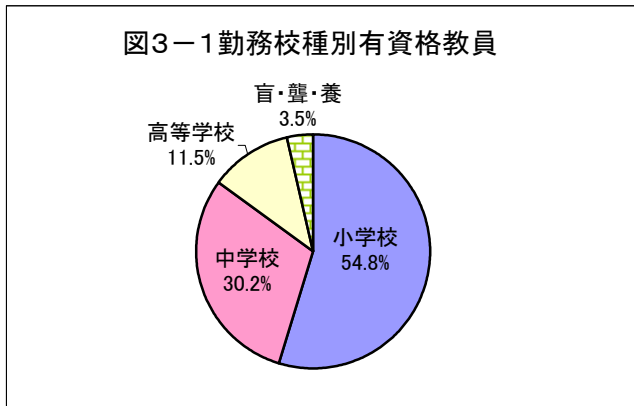


表5 有資格教員の現在の年齢

	小学校	中学校	高等学校	盲・聾・養	合計
20代	1	0	0	1	2
30代	65	27	8	6	106
40代	174	101	34	12	321
50代以上	146	85	39	6	276

- ・ いずれの校種でも40歳代、50歳代が多い。

### 問3 社会教育主事有資格教員が現在勤務する学校の種類

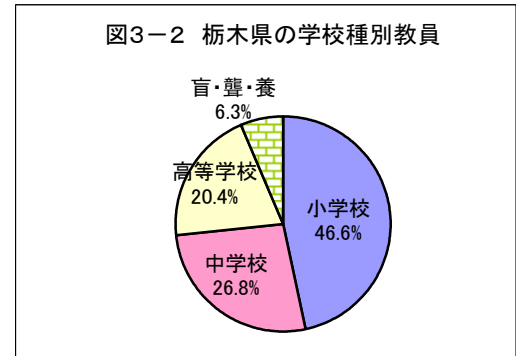


n=705

表6 勤務校種別有資格者教員数

小学校	中学校	高等学校	盲・聾・養
386	213	81	25

(参考) 栃木県の学校別教員数  
(校長、教頭、教諭、養護教諭の合計)



n=13,979

表7 栃木県の学校種別教員数

小学校	中学校	高等学校	盲・聾・養
6,508	3,740	2,853	878

(出典: 栃木県公立学校教員構成調査 平成18年5月1日現在)

- ・ 小・中学校と県立学校の全教員数の比が、およそ3 : 1であるのに比べて、社会教育主事有資格教員では小・中学校に対して県立学校の教員の割合が低い。

### 問4 社会教育主事有資格教員の職名別構成

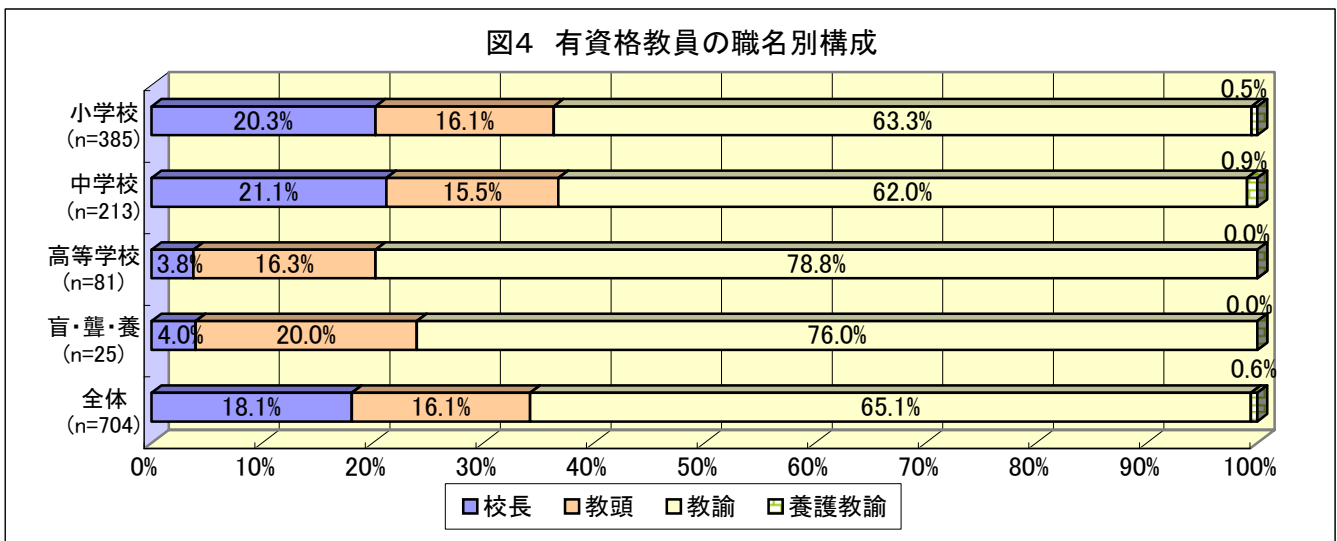


表8 有資格教員の職名別構成

	小学校	中学校	高等学校	盲聾養護	合計
校長	77	45	3	1	126
教頭	62	33	13	5	113
教諭	244	133	65	19	461
養護教諭	2	2	0	0	4

- ・ 県立学校に比べて、小・中学校では、校長の割合が高い。養護教諭の有資格者は小・中学校に2名ずついる。

問5 社会教育主事講習はいつどこで受講しましたか。

1 受講年度

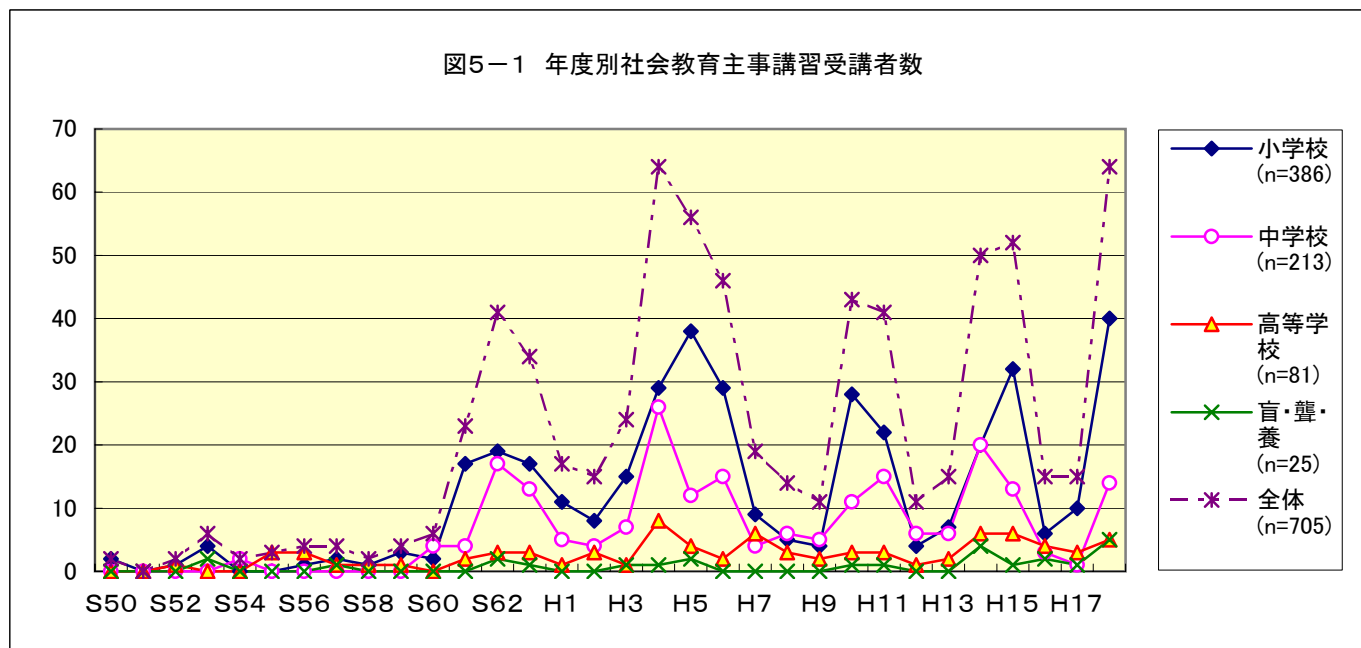


表9 年度別社会教育主事講習受講者数

	S50	S51	S52	S53	S54	S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
小学校	2	0	1	4	0	0	1	2	1	3	2	17	19	17	11	8	15	29	38	29	9	5	4	28	22	4	7	20	32	6	10	40
中学校	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	4	4	17	13	5	4	7	26	12	15	4	6	5	11	15	6	6	20	13	3	1	14
高等学校	0	0	1	0	0	3	3	1	1	1	0	2	3	3	1	3	1	8	4	2	6	3	2	3	3	1	2	6	6	4	3	5
盲聾養護	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	2	1	0	0	1	1	2	0	0	0	0	1	1	0	0	4	1	2	1	5
合計	2	0	2	6	2	3	4	4	2	4	6	23	41	34	17	15	24	64	56	46	19	14	11	43	41	11	15	50	52	15	15	64

・昭和61年度より受講者数が大幅に伸びている。

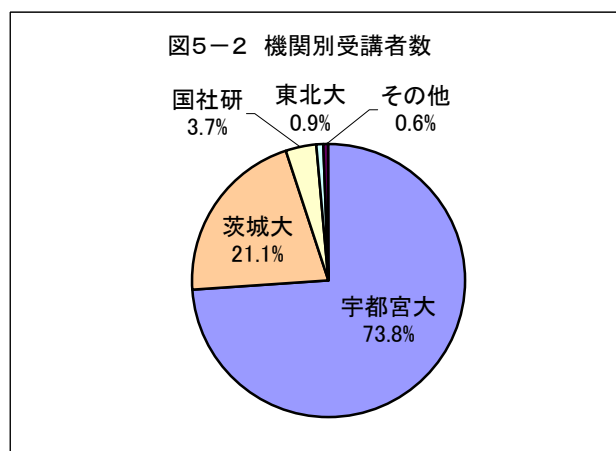
2 受講した機関

表10 機関別受講者数

	小学校	中学校	高等学校	盲・聾・養	全体
宇都宮大	293	162	48	17	520
茨城大	78	46	21	4	149
国社研*	12	4	9	1	26
東北大	0	0	3	3	6
その他	3	1	0	0	4

(\*国社研:国立教育政策研究所社会教育実践研究センター)

・宇都宮大学での受講者が約74%いる。



n=705

問6 大学在学中に社会教育主事に関する単位を取得しましたか。

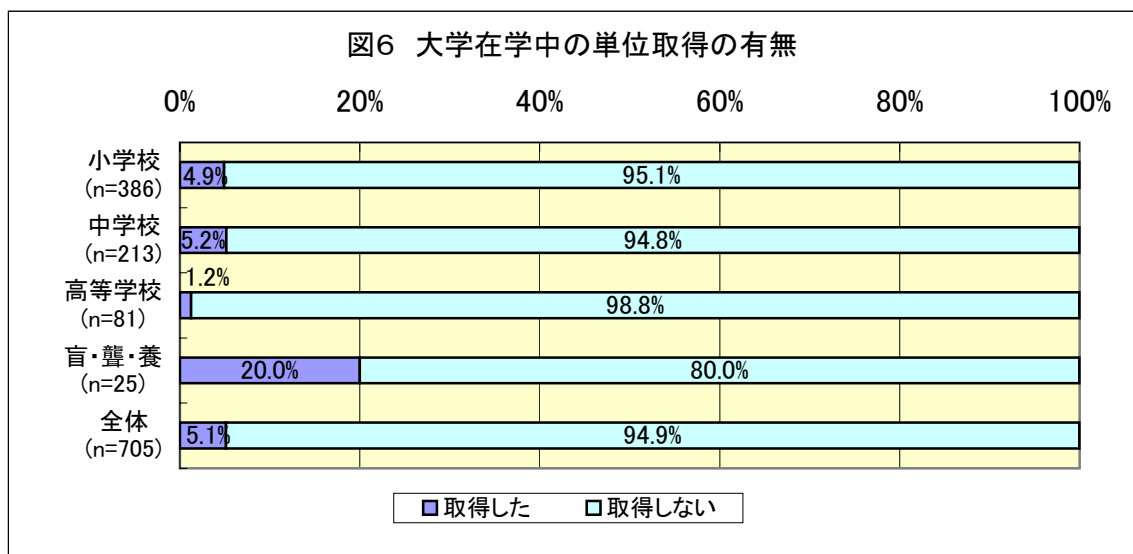


表11 大学在学中の単位取得の有無

	小学校	中学校	高等学校	盲・聾・養	合計
取得した	19	11	1	5	36
取得しない	367	202	80	20	669

- ・ 全体では約5%程度の方が在学中に単位を取得しているが、盲・聾・養護学校での取得者の割合は20%と高い。

問7 あなたはこれまでに県や市町村などの行政機関および青年の家など社会教育施設に勤務したことがありますか。

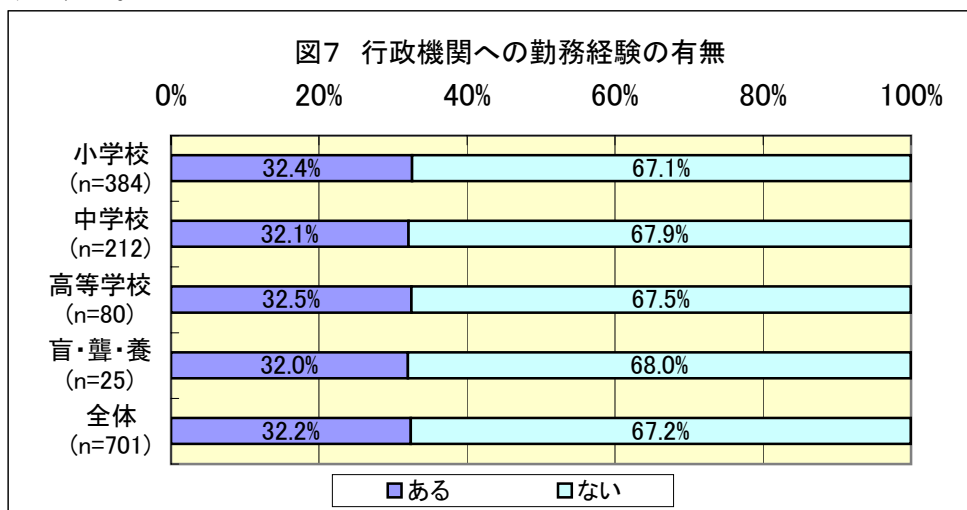
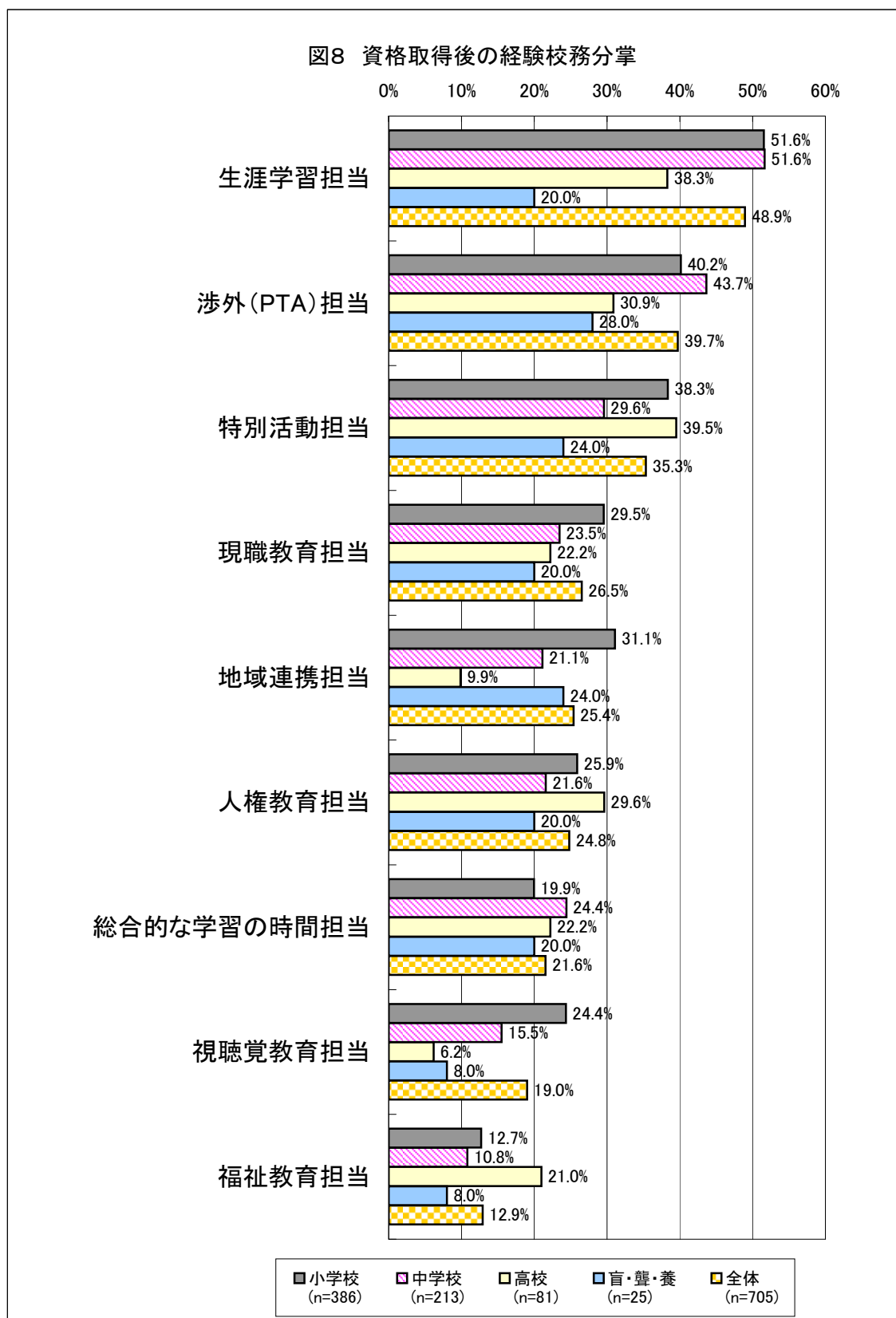


表12 行政機関への勤務経験の有無

	小学校	中学校	高等学校	盲・聾・養	合計
ある	125	68	26	8	227
ない	259	144	54	17	474

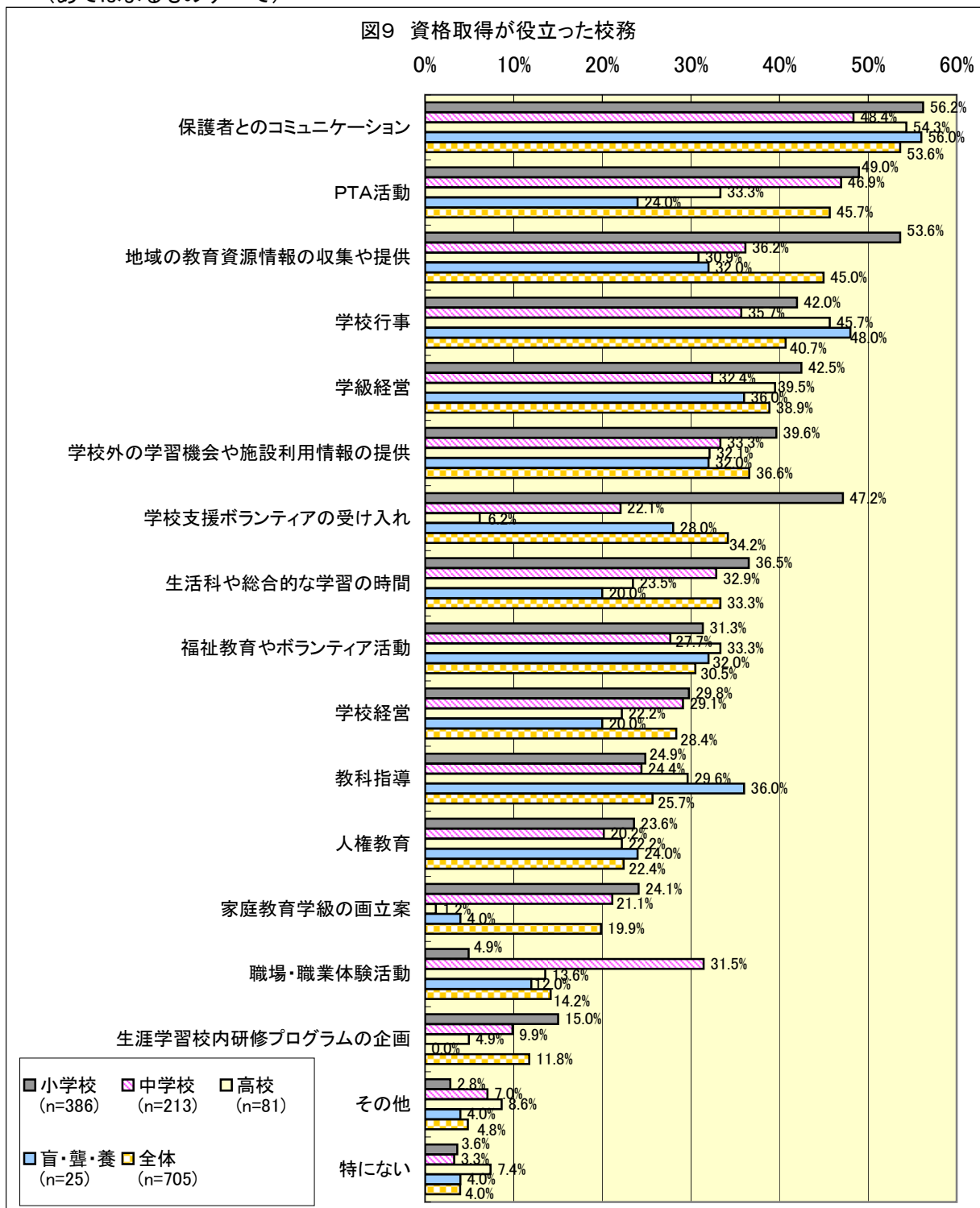
- ・ いずれの学校種でもおおむね3人に1人の割合で行政経験がある。

問8 あなたが社会教育主事講習を受講してからこれまでに経験した校務分掌ではまるものはどれですか。(あてはまるものすべて)



- 生涯学習担当、特別活動担当、渉外（PTA）担当の割合がいずれの学校種でも高い。また、小学校と盲・聾・養護学校では地域連携担当の割合が高い。

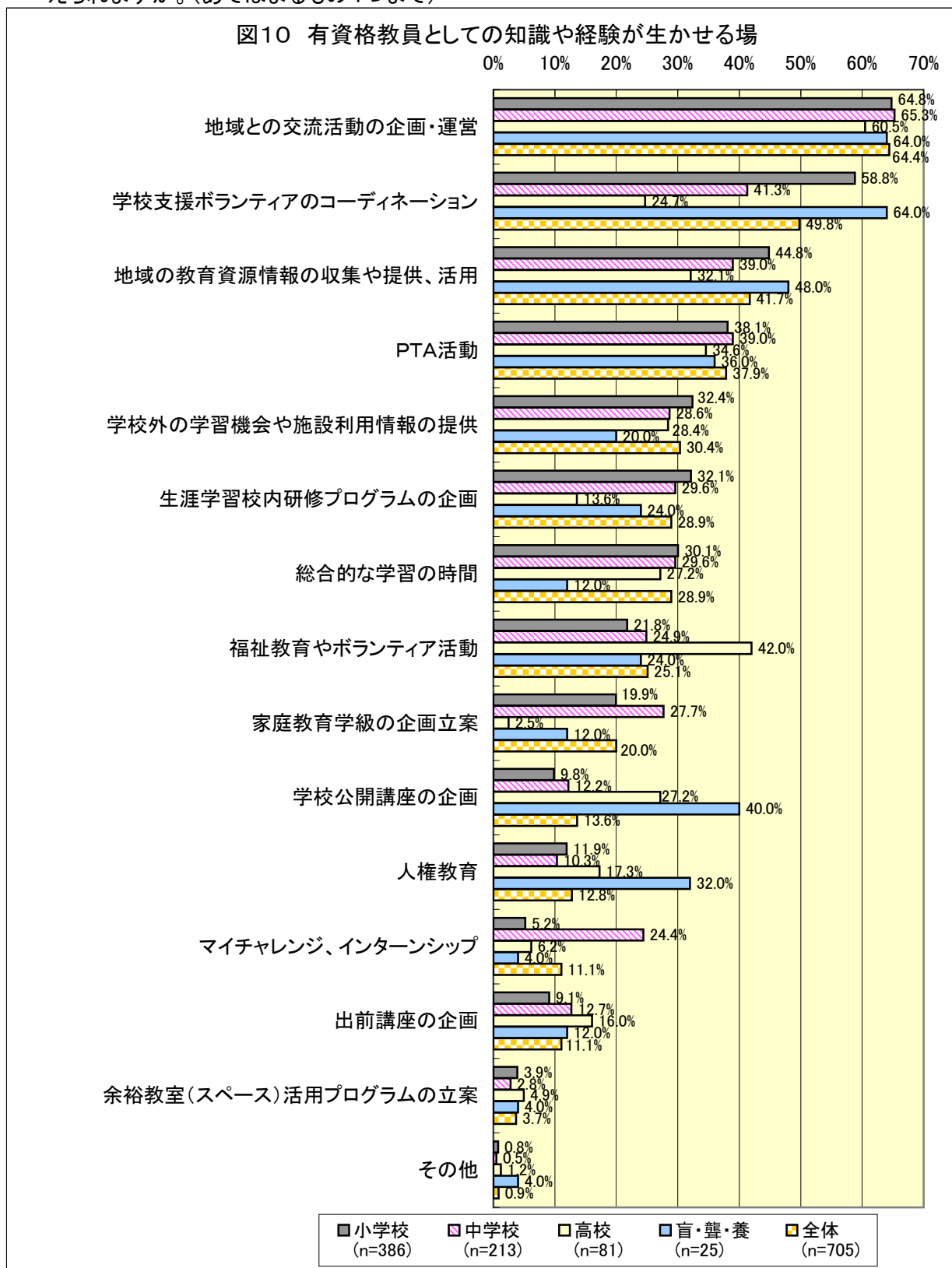
問9 社会教育主事の資格を取得したことが学校で役に立ったことは何ですか。  
(あてはまるものすべて)



その他

- ・ アカデミアとちぎ企画運営
  - ・ 美術館教育
  - ・ 教育に対する広い視野
  - ・ 生涯学習の意味がよくわかった
  - ・ 家庭教育学級の講師
  - ・ 教育政策など
  - ・ 生徒指導
  - ・ 地区の婦人教育の講師になった
  - ・ 職場の人間関係の向上
  - ・ 地域の人材活用
  - ・ 学校評議員の計画・立案
  - ・ 生涯学習に対する考え方が明確になり実践的になった
  - ・ 今までの学校教育万能からの脱却
  - ・ 学力向上フロンティア事業の際の研究構想
  - ・ 地域との融合方法の検討
  - ・ 各地区における人間関係づくり
  - ・ 教科および学科の行事に知識・技術が生かされた
  - ・ 教育や生き方など自分の人生観に影響があった
  - ・ 音楽会、講演会の計画、実践
  - ・ コミュニティスクールの内容理解
  - ・ 行政や公民館との連携
  - ・ 部活動での保護者とのかかわり
  - ・ 開かれた学校づくり
- ・ いずれの学校種でも、「保護者とのコミュニケーション」と答えた割合が高い。また、「PTA活動」や「地域の教育資源情報の収集や提供」の割合も高い。

問10 学校内で社会教育主事有資格教員としての知識や経験が生かせる場として、どのようなことが考えられますか。(あてはまるもの4つまで)



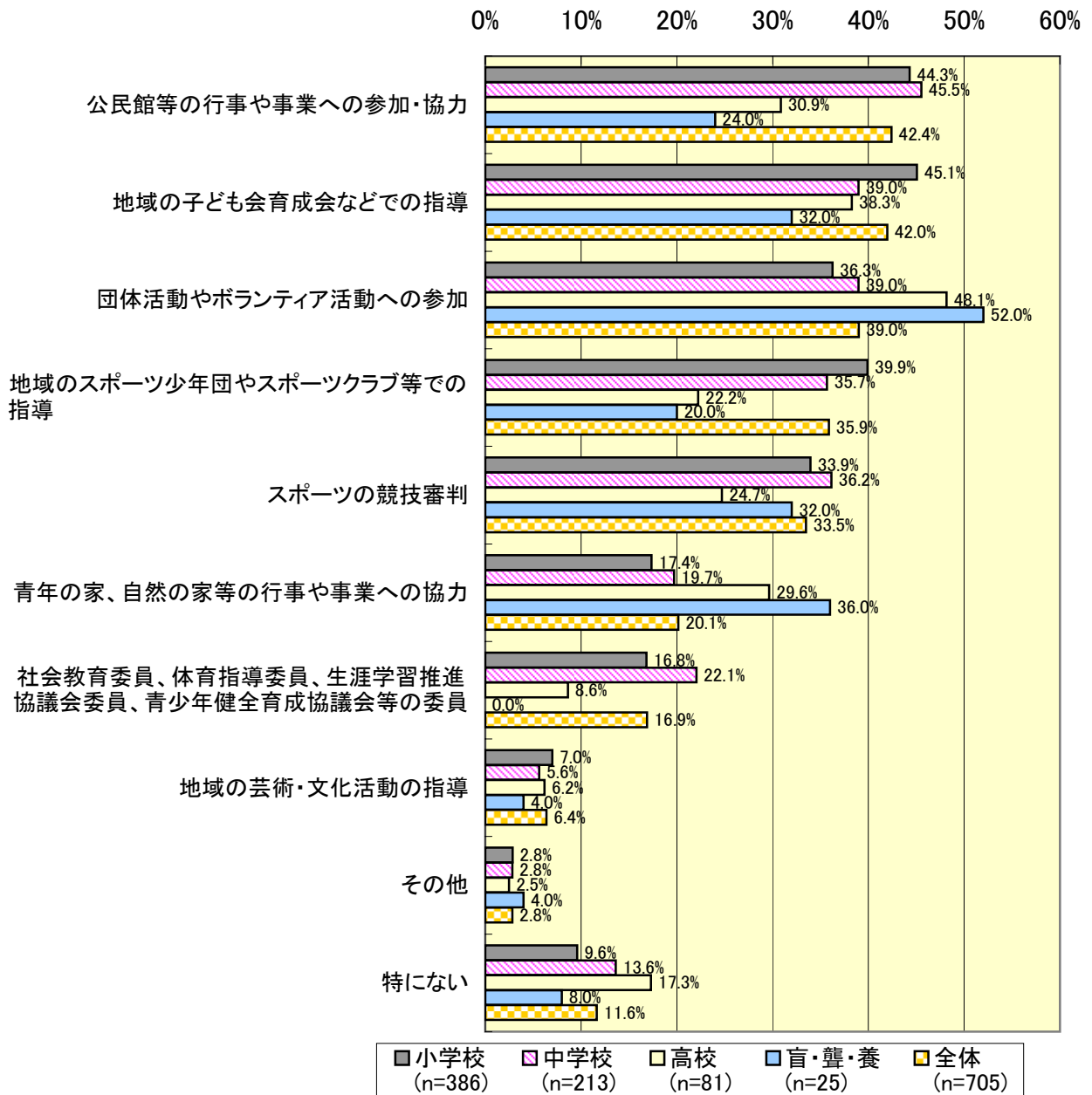
その他

- ・ 教員としては資格の有無や経験はあまり問題ではない
  - ・ 学校経営に生かせる
  - ・ 行政や公民館等との協働による活動の企画運営
  - ・ 全てあてはまる。あとはやる気
  - ・ 本人次第
  - ・ 学校支援ボランティア養成講座
- ・ いずれの学校種でも、「地域との交流活動の企画・運営」の割合が高い。また、「学校支援ボランティアのコーディネーション」の割合は高校以外の学校種では高い。



問11 あなたは、これまでに次に示す地域での活動に携わったことがありますか。  
 (携わったことがあるものすべて。社会教育主事として携わった場合を除く)

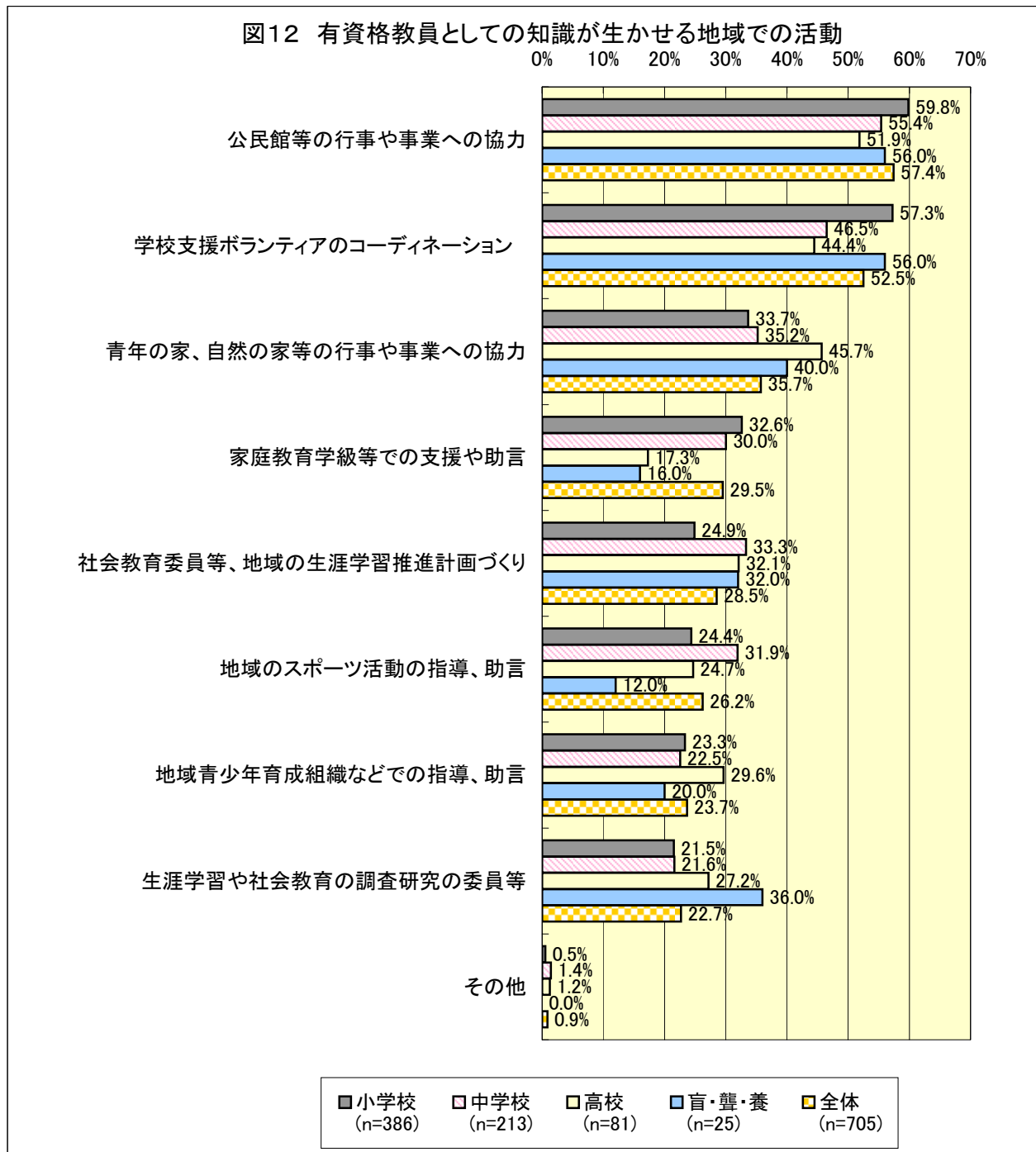
図11 参加したことがある地域活動



その他

- ・ 下野市生涯学習ボランティアコーディネーター連絡会
  - ・ 宇都宮市青少年補導員
  - ・ 地域活性化事業
  - ・ 群馬県新採研修
  - ・ ふれあい学習企画委員
  - ・ 家庭学級の講師
  - ・ 地域との交流活動(保育園、介護学級)
  - ・ 体育協会
  - ・ まちおこし講座のパネラー
  - ・ 駐在所連絡協議会
  - ・ 地域と学校が一緒に行う運動会・芸術祭の企画・運営
  - ・ ガイドボランティア・学習ボランティア講話
  - ・ 地域の行事
  - ・ 地域の社会スポーツの企画・運営
  - ・ 公民館、学校、地域のハイキング指導
  - ・ BBS活動(青少年健全育成のボランティア活動)
  - ・ スポーツリーダーバンク
  - ・ 公民館運営審議会委員
- ・ いずれの学校種でも「団体活動やボランティア活動」への参加、「地域の子ども育成会などでの指導」の割合が高い。また小・中学校では、「公民館活動への参加」の割合も高い。

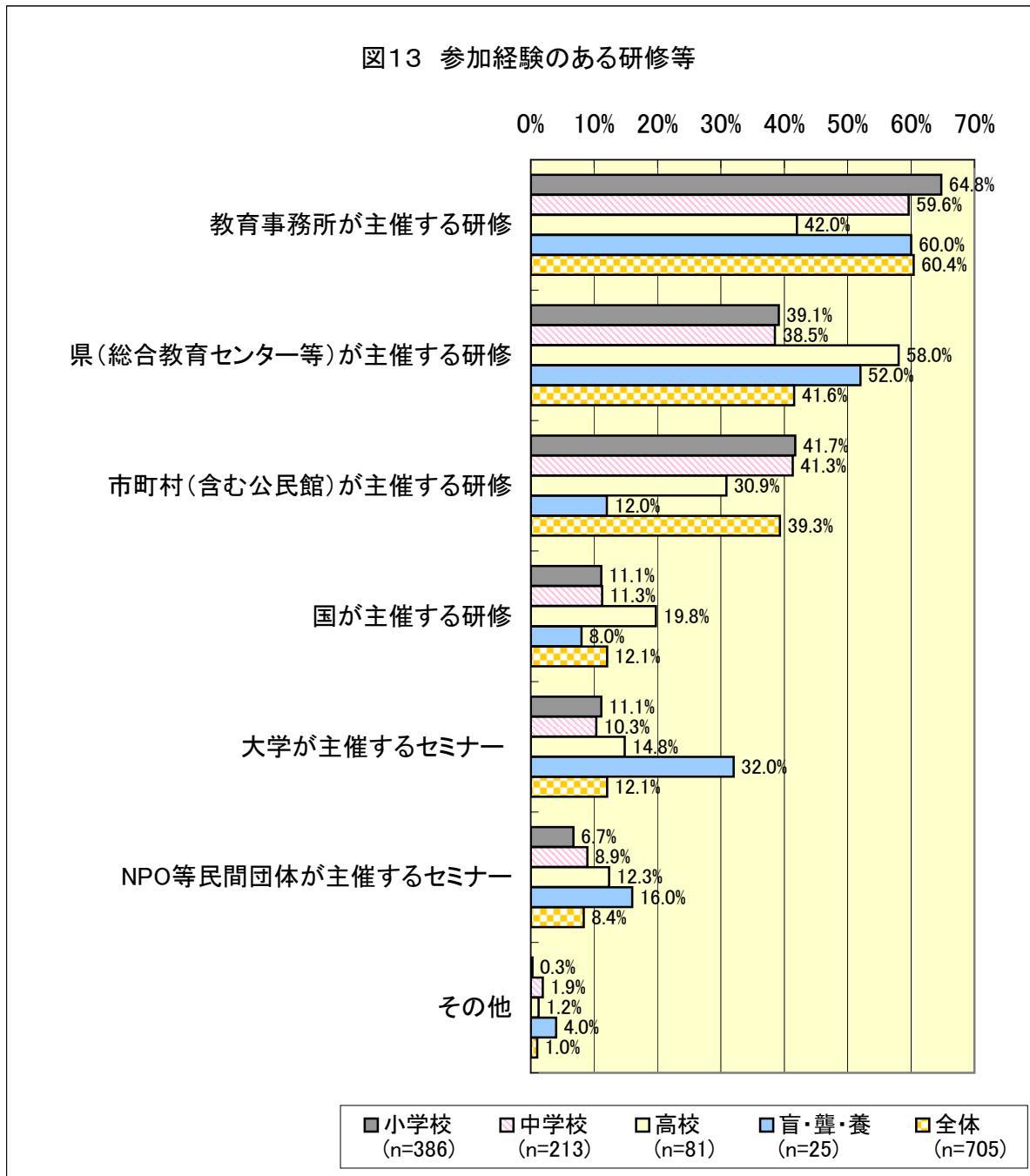
問12 社会教育主事有資格教員としての知識や経験が生かせる地域での活動にはどんなものがあるとお考えですか。(あてはまるもの3つまで)



その他

- ・ 教員としての自覚と責任があれば有資格等の条件は問題にならない
  - ・ 自分の仕事が忙しすぎる
  - ・ 現実には部活動指導で時間がとれない
  - ・ 現職の教員である限り、地域で活動するのは無理がある
  - ・ 全てにあてはまる。あとはやる気
  - ・ 本人の能力次第
- ・ すべての学校種で「公民館等の行事や事業への協力」と「学校支援ボランティアのコーディネーション」の割合が特に高い。

問13 あなたはこれまで、次に示す生涯学習や社会教育に関する研修やセミナー（社会教育主事講習を除く）に参加したことがありますか。（参加したことがあるものすべて）

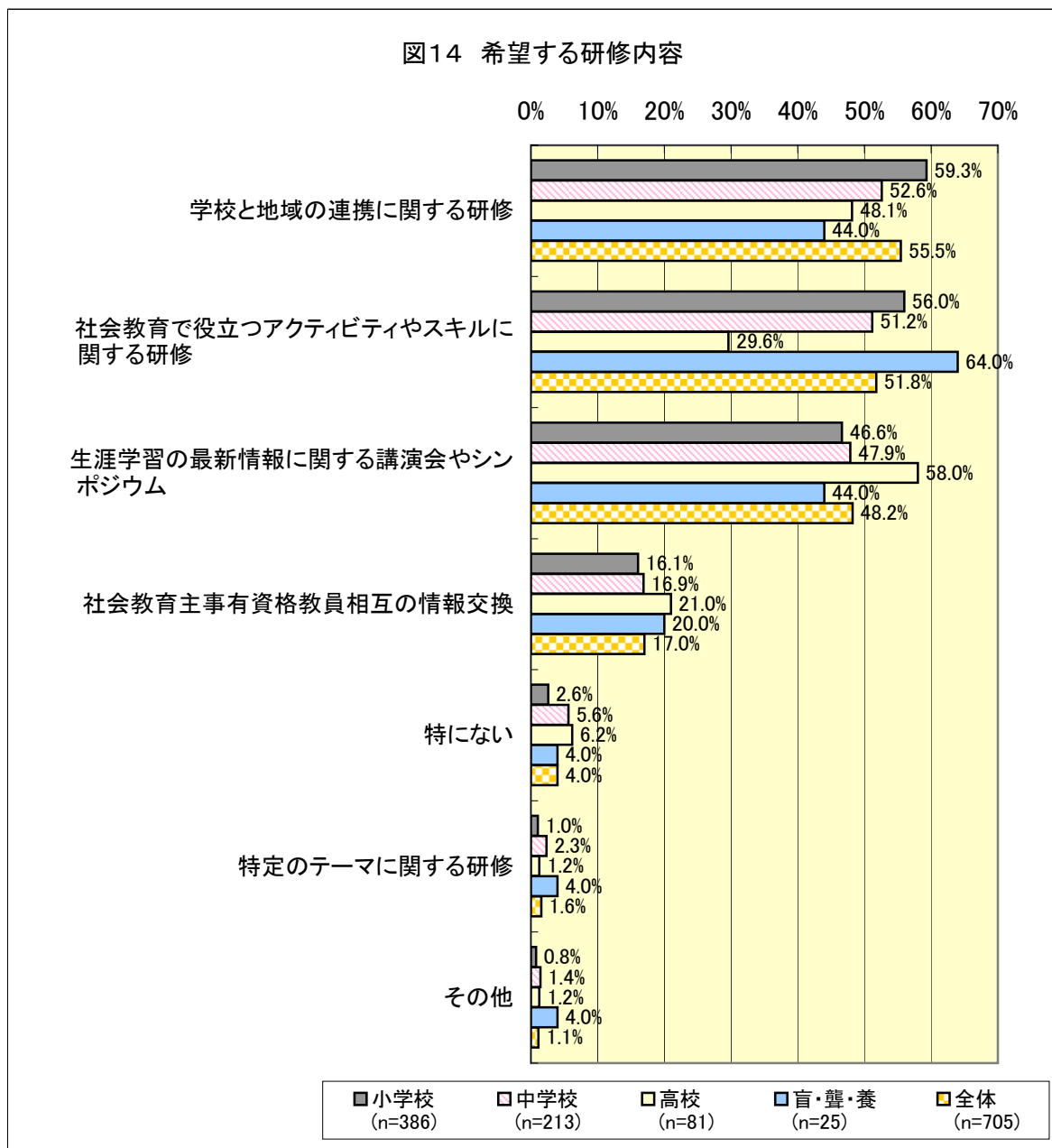


その他

- ・世界女性会議ワークショップ
- ・高校生のボランティア活動
- ・博物館での講習会
- ・県と市レベルの国際交流協会の研修会
- ・民間団体主催の研修会
- ・宇河地区生涯学習研究会主催の研修

・小、中学校および、盲・聾・養護学校では教育事務所主催の研修への参加割合が高く、高校では県（総合教育センター）主催の研修に参加している割合が高い。

問14 社会教育主事有資格教員対象の研修内容として、あなたが希望するものは何ですか。  
(希望するもの2つまで)



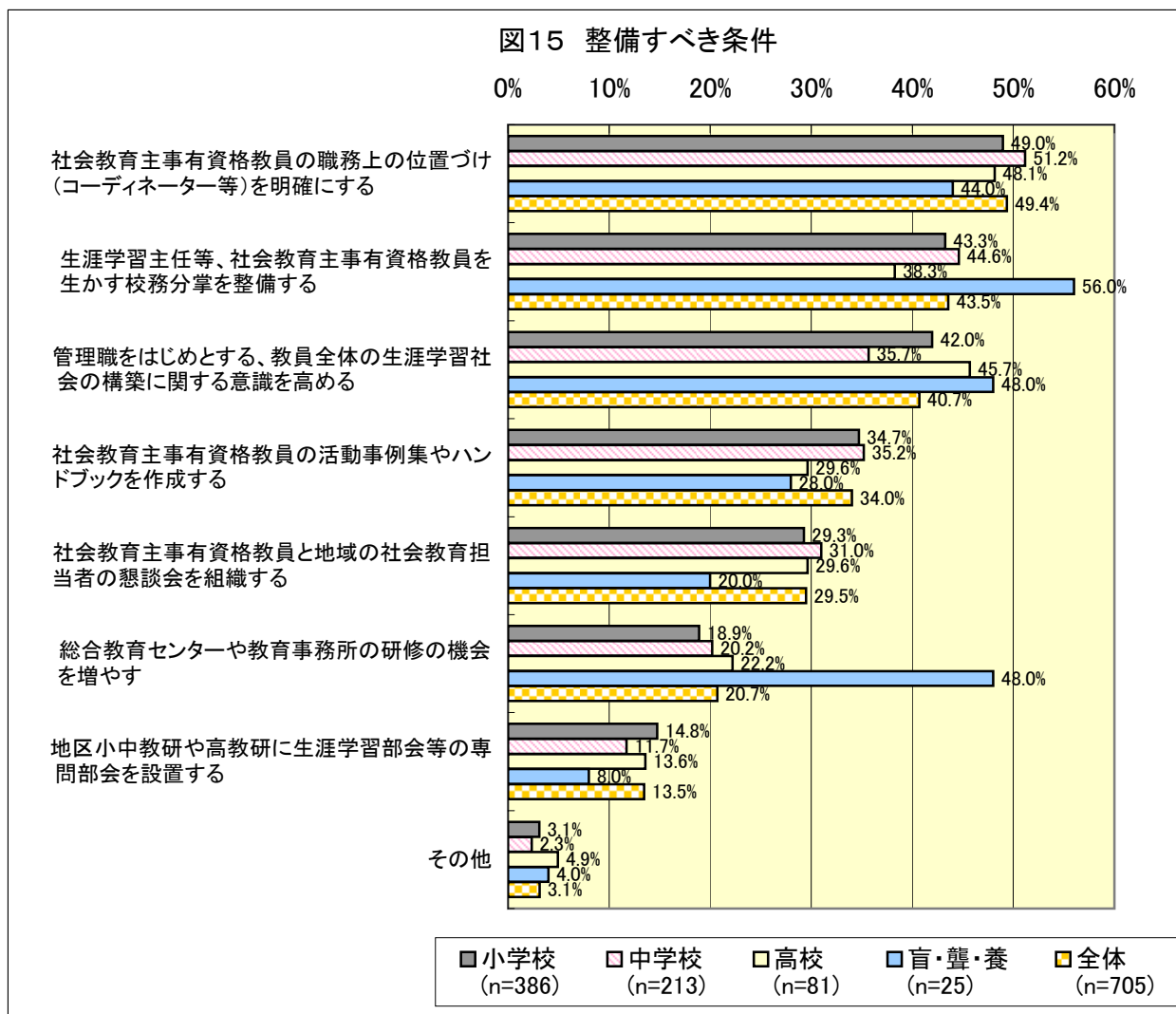
特定のテーマに関する研修(記述)

- ・ 起業セミナー
- ・ 生きる力をはぐくむために
- ・ ワークショップのネタ
- ・ 保護者を盛り上げるワークショップの技法
- ・ レクリエーション
- ・ 家庭教育充実についての実践的事例研究
- ・ 親育て研修(家庭教育)

その他

- ・ 実践者の事例発表(意欲化へ)
  - ・ 活動できる場の確保
- ・ いずれの学校種でも、「学校と地域の連携に関する研修」および「最新情報に関する講演会やシンポジウム」へのニーズが高く、高等学校を除く学校種では「PTAなど社会教育で役立つアクティビティやスキルに関する研修」に対するニーズが高い。

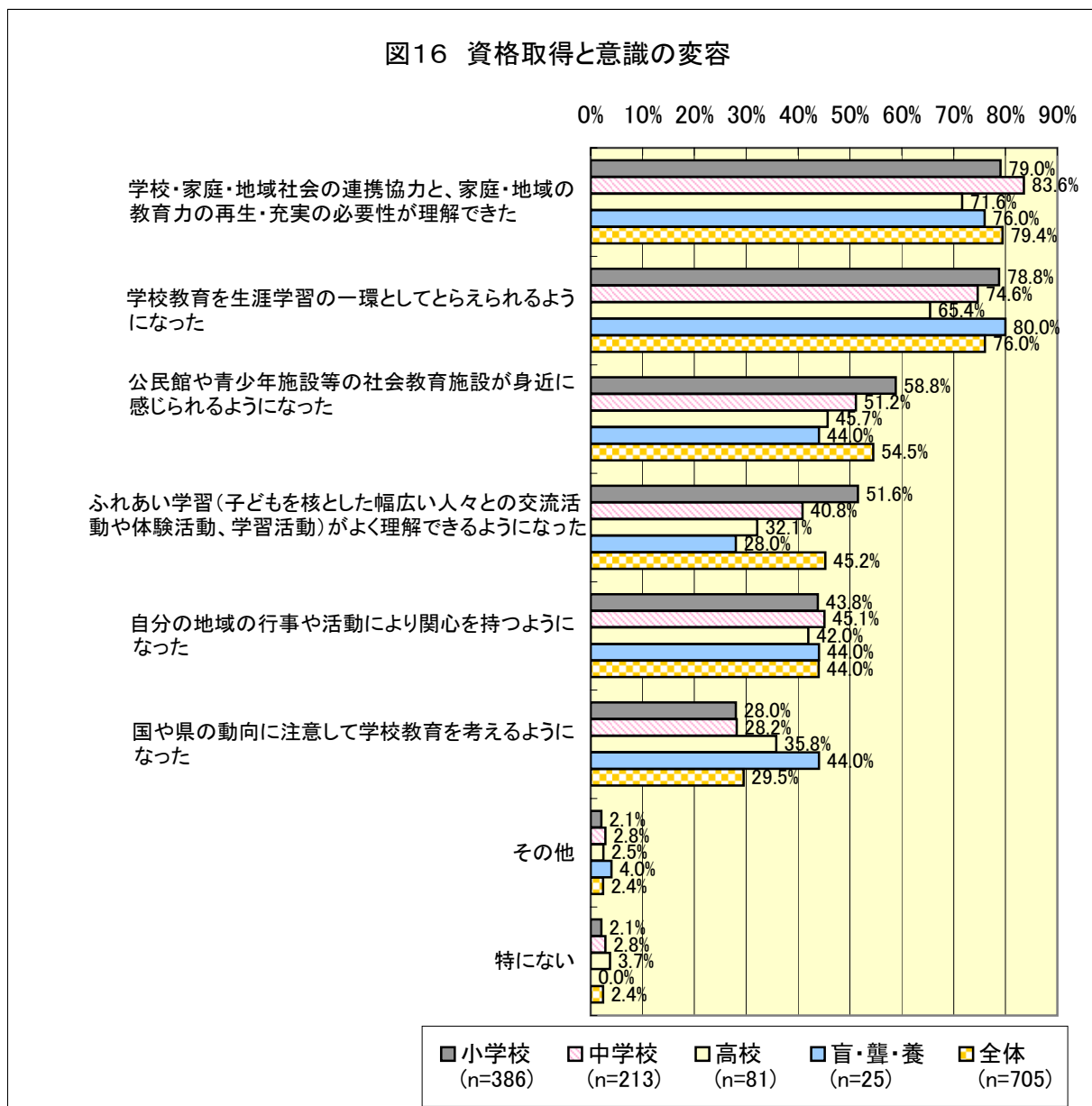
問15 社会教育主事有資格教員が活躍するために整備すべき条件は何だと思いますか。  
(あてはまるもの3つまで)



その他

- ・ 社教主事有資格者のゆとり
  - ・ 公的財団の組織・内容が適正であるのか明らかにすべき
  - ・ 学校以外で資格を生かせるところに配置など
  - ・ 有資格者が関連行事を行う
  - ・ 校内での存在感もないので教諭とは別に社教主事を給与上も含めて職務上格付けの制度を作る
  - ・ 短期間でも施設等へ勤務する(交流研修)
  - ・ 仕事量が多く専門的に活動できる人的な配慮が必要
  - ・ 市町村単位に身分と場を保障し、活動の場を確保すること
  - ・ 活躍するための時間的な保障
  - ・ 公民館での社会教育実習
  - ・ 市町村教委に有資格教員を配置する
  - ・ 業務を明確にする
  - ・ 社会教育を真剣に考えられる時間の確保
  - ・ 実践意欲を高めるための講座
  - ・ 現実的に担任などの仕事があると活躍といっても難しい。中学校区で一人程度というように専門職として配置してほしい
  - ・ 仕事に没頭している
  - ・ 社会教育主事有資格者自身の意識、資質の向上
- ・ いずれの学校種でも、「社会教育主事有資格教員の職務上の位置づけを明確にすること」や、「校務分掌上での位置づけを明確にすること」、「管理職をはじめとする教員全体の生涯学習社会の構築に対する意識を高める」などの割合が高い。

問16 社会教育主事の資格を取得する前と後であなたの意識の中で変容したことは何ですか。(あてはまるものすべて)

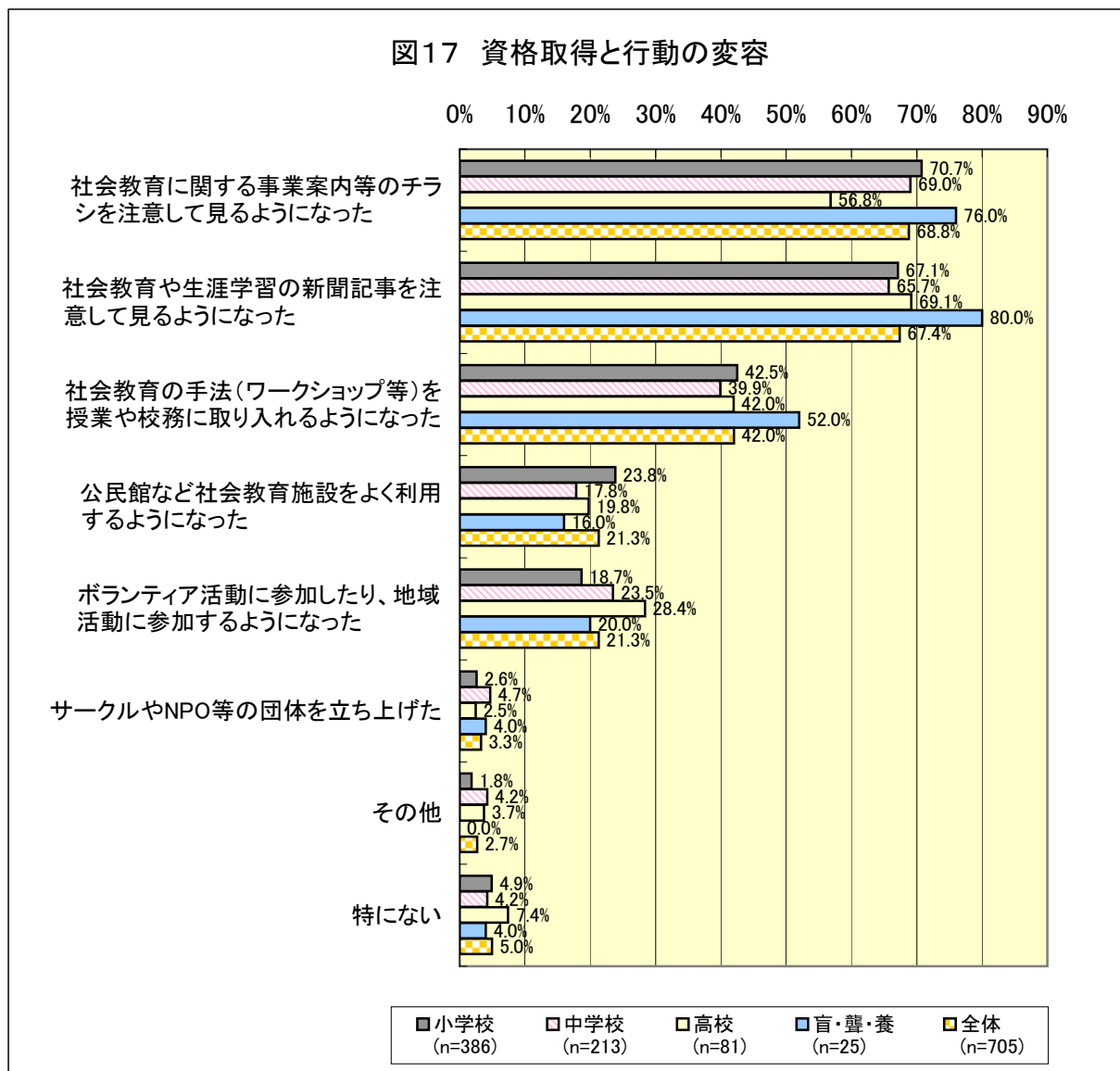


その他

- ・ 行政で働きたいと考えた
- ・ 取得直後は意気に感じたこともあったが10年もたつと・・・
- ・ 社会教育・生涯学習がより身近なものに感じられその大切さもわかった
- ・ 人間関係の大切さ、コミュニケーションについて学んだ
- ・ 同じ考えを持つ人の存在
- ・ 人と積極的にかかわること
- ・ 自分が行った青少年活動やボランティア活動の実践と理論を合わせて考えられるようになった
- ・ 人と接する時の意識の持ち方
- ・ じっくりと教育に取り組む
- ・ 子どもへの学習の提供の仕方、自分自身の学ぶ姿勢、生き方などが変わった
- ・ 授業を行う上で意識するようになった
- ・ 他校の美術教員との交流協力の活性化
- ・ 学校・家庭・地域社会との連携を考えにおき、生涯学習を意識した授業を打ち出せるようになった
- ・ 何かはじめようとする

・ いずれの学校種でも「学校・家庭・地域社会の連携協力と、家庭・地域の教育力の再生・充実の必要性が理解できた」と「学校教育を生涯学習の一環としてとらえられるようになった」の項目の割合が高い。

問17 社会教育主事の資格を取得したことであなたの行動で変化したことは何ですか。  
(あてはまるものすべて)



その他

- ・ 専門分野の自己研修により積極的になった
  - ・ 教科・学科の活性化に努められるようになった
  - ・ 地域に協力するようになった
  - ・ 子どもだけに学ばせるのではなく、自分も学ぶために研修・講習・講話などに参加して県内外に出かけるようになった
  - ・ NPO団体の理事になった
  - ・ ネットワークが広がった
  - ・ 学校内に親父の会を構築した
  - ・ 公民館の人たちとよく話すようになり公民館の活動に参加するようになった
  - ・ 総合的な学習の計画に多くの要素を取り入れることで充実した活動に発展できた
  - ・ 物の見方が広がった
  - ・ 教育雑誌「社会教育」を時々読む
  - ・ 教育活動と地域との連携を強く意識した
  - ・ 12年3ヶ月、国、県で青少年教育や社会教育行政、生涯学習の推進に携わることができた
  - ・ この町としてどんな子どもを育てたらいいかと考えるようになった
  - ・ 出会いを大切にするようになった
  - ・ 授業に地域の方々関係諸機関のボランティアティチャーを活用するようになった
  - ・ スポーツ少年団の指導
- ・ いずれの学校種でも、社会教育や生涯学習に関する新聞記事やチラシに目がいくようになった人の割合が高く、次いで授業の中に社会教育の手法を取り入れている割合も高い。その他、自らNPOなどを立ち上げたという意見も見られた。

問18 あなたがこれまで、実践した事例（学校、地域を問わず）の中で参考となる事例がありましたらご紹介下さい。（「IV ヒアリング調査結果」参照）

問19 社会教育主事有資格教員の学校や地域における活動の可能性について、あなたのお考えをお書き下さい。

## 1 浮かび上がる社会教育主事有資格教員の2つの大きな声

### その1

#### 社会教育主事のスキルを生かせる活動の場の提供を求める声

- 現在のところ、本県では資格は持っていますが、学校の中にと、特に活動にかかわることはないのが現状です。活動に参加する時間も限られ、何か1つくらいは参加したいと思っていますが、何もできないでいます。企画段階から参加できればいいのですが。（平日の夜なら）
- 可能性はたいへん大きいものがあるように思われますが、有資格教員の活用が十分図られているとはいえないように思われます。
- 本人のやる気と公的な機会の提供があれば活動ができるし、励みになる。
- 有資格教員は必ず一度は現場を経験させるシステムを作してほしい。たいへん勉強になるはずですが。
- 長期休業時、海浜自然の家等で、お手伝いをしてみる体験をさせていただきたい。将来そこで働けるかどうか、自分の考えを持つために。

### その2

#### 校務の多忙感に追われる日々・仕事の増加を警戒する声

- 校務に忙殺されて、なかなか生涯学習にまで思いをめぐらすところまで至っていません。何か、役に立てるような場がないか、探しています。
- 社会教育主事有資格教員として、コーディネーター役を担わなければならないのでしょうが雑務に追われる毎日で余裕がないのが現実です。
- 授業や校務分掌の仕事に「ゆとり」があれば可能性は大きくなると思う。
- 学年・学級事務に追われる毎日で、それ以外の活動をするゆとりがありません。兼任という形では絶対に何かをしていく自信はなく、また経験もないので今のところ先が見えません。
- 活動の可能性があるかないかと聞かれれば、あると思います。ただそのためには、活動するための時間の確保が必要かと思われま。有資格教員だからということより、むしろそちらの要素の方が大きいのではないのでしょうか。時間を生み出す方法はいろいろあるかと思いますが・・・。
- 日々、学校内での任務や学級担任としての任務に追われて、社教主事としての活動まで考えられないのが現状です。が、研修を受けたことは、学校や学級の中で学習や保護者との連携など大いに役立っています。社教主事として活動するには、学校の体制、校務分掌を整えないとうまく機能しないと思います。



## 2 社会教育主事有資格教員として意欲的な活動の場を求めている

### 授業や校務で活用する

- 豊富な人脈を学校の体験活動やP T A研修に活用する。
- 「人と人のつながりの大切さ」や「学校以外での学びの可能性」について理解している社教主事有資格教員が各校一人ずつ配置されることは理想的であると思う。
- 職員間のコミュニケーションのとり方についてアドバイスをしていくこと。
- 地域住民とのかかわり、保護者とのかかわりを持つ姿を他の教員に示すことだと思います。(意識を広げるという意味で)
- 総合的な学習の時間や開かれた学校づくりの推進という観点から、有資格教員がリーダーシップを発揮し、活躍する場は、広がっていると思います。
- 体験的学習や地域人材を活用した教育課程が編成しやすい。実施にあたっては、企画・立案・渉外等に関与しやすい。また、地域と連携した行事(例えば本校では運動会・体育祭、教育振興大会を実施)を開催するための関与ができるし、学校経営方針に位置づけて実施することができる。
- 地域・学校の実態をふまえ、生涯学習の一環としての視点から学校行事やその他の地域との連携を生かした取組に、専門的な考えを取り入れることができると思います。広い視野での計画に近づくのではないのでしょうか。

### 学校と地域のパイプ役・コーディネーターとしての役割

- 根本は子ども、子どもをはぐくむために、学校と地域を結ぶことができるよう、アンテナを高くするにはしています。
- 学校と地域を連携するパイプ役と考えています。地道な活動を継続的にすることが大切である。早急な成果を求めないことが重要であると考えます。
- 子どもが少なくなってきた、小規模校が増えると今よりさらに地域の方の協力が必要になると思われる。そこで、学習活動や行事等の時に学校と地域とのパイプ役となる活動が大切になると考えられる。
- スポーツ活動や子ども会活動で、指導者を紹介したり、行政と連携したりして、コーディネーターとして、地域の活性化や地域の人々のよりよい人間関係づくりのきっかけをつくることできる。
- 学校と地域をつなぐ窓口、コーディネーターになりたい。そのために地域をもっと知りたいと考えています。地域が学校を変える、学校が地域を変えると思います。それぞれがよりよく高め合える関係になれるような活動を考えていきたいです。

### 地域社会への貢献

- 学校現場の現状を地域に理解してもらえるような活動を模索する中で、地域づくりに参画できるのではないかと。また自分の地域の中で、地域の活性化につながる活動ができるのではないかと。
- 地域の活性プログラムづくりに参加すると経験が生かされると思います。
- 学校もさることながら地域での活動の可能性が大であることを痛感している現在である。

### **3 社会教育主事有資格教員の活躍に向けての条件整備**

#### **職務制度上の整備**

- 自発的に活動すべきと言われてもなかなか思うようにはいかない。行政上でも、校内でも有資格教員の職務上の位置づけを明確にしていけないとうまく機能しないのではないか。やはりポジションは明確にされないとうまく動かないものだろう。
- 社会教育主事有資格教員の職務上の位置づけを明確にすることで、管理職や他職員にも理解され、活動できるものになると思う。
- 有資格教員であることが、履歴書上の記入だけでなく、職名的な位置づけがなされ、所属校で優先的に活用されることを望む。
- 行政機関や学校の分掌上に明確な位置づけと役割があり、しかも有資格教員の組織が整っていることが必要かと思われます。（一人の力では限界がある。）

#### **校務分掌上での位置づけ**

- 個人の意欲・関心の大きさに左右されると思いますが、学校で資格を生かすには、立場を理解していただける雰囲気と職務上の位置づけが大切だと思います。
- 社会教育主事有資格教員となることによって、知識や考え方が広がり、地域で活躍できる可能性も増えている。反面、有資格教員が中堅以上であることから、責任の重い校務分掌を担うケースが多い。生涯学習コーディネーター等の明確な位置づけが必要であり、他の校務を軽減する必要があると思う。
- 校務分掌における有資格教員の適材適所への配属により、学校と地域の交流や活動の幅が広がると思われる。
- 地域コーディネーターとしての役割分担を明確にして、担任などとは、別枠で、位置づけや役割等をきちんとすることが今後の活用に期待することである。

#### **社会教育主事有資格教員としての認知度を高める**

- 社会教育主事有資格教員を学校、地域にアピールしてあげないと活動の場がでてこないと思うので、県で養成した有資格教員をアピールしてほしいと思います。

#### **有資格教員などのネットワークの構築と研修機会の提供**

- 単独での活動の可能性は低いと思います。有資格教員で会を組織し、具体的な取組を考えていけるといいと思います。
- 社会教育主事有資格教員と地域の社会教育担当者の組織を作り、相互の協力や理解によって、学校や地域での活動の可能性が広がると考えます。
- 学校における生涯学習担当、つまり有資格教員の活動を広げてあげられる事例資料や情報提供をさらに行う。
- 資格をとっただけで活用がない。事後研修を県レベルで行い情報交換などしてはいかがでしょうか。
- 個人として活動することは困難であるので、資格を取得した教員へ活動の機会についての情報を提供するようなシステムを構築することにより、活動の場が広がると思う。